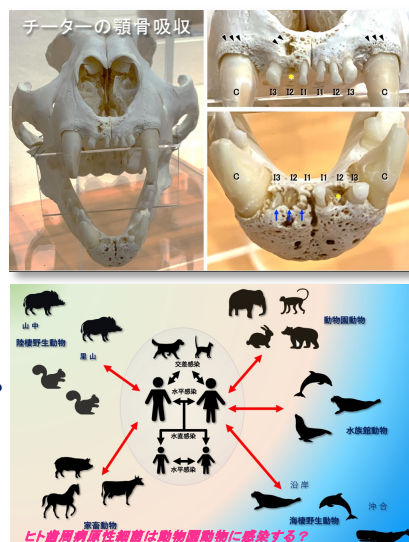


島津 徳人（口腔科学）、小林 直樹（分子生物学）、
山本 蒼士（野生動物学）、片平 浩孝（環境生物学）

研究の背景

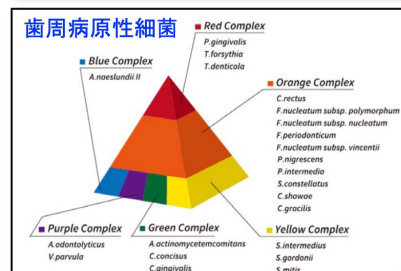
- いのちの博物館に展示されている動物の骨格標本を見て、顎骨が溶けている標本が多いことに気づきました。これは歯周病の痕跡で、さまざまな動物たちが歯周病を患っていたことが考えられました。歯周病は感染症なので、“**歯周病菌はどこから来たんだろう**”と疑問に思いました。
- 自然界の野生動物には、歯周病はほとんどないと認識されています。野生動物たちが、ヒトに飼育されるようになり、**ヒトと野生動物との“距離”が縮まる**と歯周病が発症してしまう可能性があることが考えられます。



アプローチ

「ヒトが動物に与えている影響」や「動物がヒトに与える影響」を“**口の健康(健口)**”から探ることで、ヒトと動物の共生のあり方を捉え直すため、動物園・水族館の飼育動物や野生動物で歯周病の罹患状況を調査する「418（良い歯）プロジェクト」を立ち上げました。

- 動物園・水族館の飼育動物や野生動物を対象に、歯周病検診（直接的な原因であるプラークの沈着状態の評価、歯周ポケットの深さ計測、X線・CT検査）を行います。
- 動物や飼育担当者から歯周ポケット内の唾液を採取し、その細菌叢を次世代シーケンサーによる16S rRNA解析にて同定し、歯周病菌の感染状況を調べます。



期待される結果

- ヒトと動物の間で歯周病菌の交差感染が確認できれば、人獣共通感染症という捉え方もできるようになります（ヒトから動物に歯周病が感染するから“ヒトが悪い！”、動物からヒトに歯周病が感染するから“動物が悪い！”ということを証明したい訳ではありません）。
- 歯周病菌は唾液感染を基本としていますが、ペット以外の動物にどのように感染しているのかを解明することで、細菌感染の新しい経路の発見につながるかもしれません。

募集方法

応募者が多数の場合は面接により選考します（ジェネプロ応募資格のある学生は、一定の成績を収めていますので“成績”を基準に選考はしません）。

